

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 24 日作成)

小委員会名	住宅計画小委員会		主 査 名：高田光雄 就任年月：2008 年 4 月																
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)		委員長名：松村秀一 主 査 名：高田光雄																
設 置 期 間	2008 年 4 月 ～ 2012 年 3 月																		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会は、「住居・住宅地 (大会発表論文分類による)」を対象とした課題を検討することを目的とし、下記の重要かつ緊急性のある課題を検討する。</p> <p>① 最近 10 年間の集合住宅計画の調査研究のまとめと出版                  ② 超高層住宅の将来問題に関する研究                  ③ 住宅系研究論文報告会の実施                  ④ 住宅研究における若手研究者の論文発表会の開催                  ⑤ 住宅関連学会、及び設計事務所研究会等との意見交換</p>																		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：あり</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">高田光雄 (京都大学)</td> <td style="width: 50%;">鈴木雅之 (千葉大学)</td> </tr> <tr> <td>初見学 (東京理科大学)</td> <td>森保洋之 (広島工業大学)</td> </tr> <tr> <td>山本理 (長谷工総合研究所)</td> <td>川崎直宏 (市浦ハウジング&amp;プランニング)</td> </tr> <tr> <td>瀬渡章子 (奈良女子大学)</td> <td>定行まり子 (日本女子大学)</td> </tr> <tr> <td>佐野こずえ (近畿大学)</td> <td>高井宏之 (三重大学)</td> </tr> <tr> <td>山口健太郎 (近畿大学)</td> <td>安武敦子 (駒沢女子大学)</td> </tr> <tr> <td>安枝英俊 (京都大学)</td> <td>佐々木誠 (プレイスメイキング研究所)</td> </tr> <tr> <td>切原舞子 (有明工業高等専門学校)</td> <td></td> </tr> </table>			高田光雄 (京都大学)	鈴木雅之 (千葉大学)	初見学 (東京理科大学)	森保洋之 (広島工業大学)	山本理 (長谷工総合研究所)	川崎直宏 (市浦ハウジング&プランニング)	瀬渡章子 (奈良女子大学)	定行まり子 (日本女子大学)	佐野こずえ (近畿大学)	高井宏之 (三重大学)	山口健太郎 (近畿大学)	安武敦子 (駒沢女子大学)	安枝英俊 (京都大学)	佐々木誠 (プレイスメイキング研究所)	切原舞子 (有明工業高等専門学校)	
高田光雄 (京都大学)	鈴木雅之 (千葉大学)																		
初見学 (東京理科大学)	森保洋之 (広島工業大学)																		
山本理 (長谷工総合研究所)	川崎直宏 (市浦ハウジング&プランニング)																		
瀬渡章子 (奈良女子大学)	定行まり子 (日本女子大学)																		
佐野こずえ (近畿大学)	高井宏之 (三重大学)																		
山口健太郎 (近畿大学)	安武敦子 (駒沢女子大学)																		
安枝英俊 (京都大学)	佐々木誠 (プレイスメイキング研究所)																		
切原舞子 (有明工業高等専門学校)																			
設置 WG (WG 名：目的)	<p>超高層の将来問題検討WG：超高層住宅の将来問題を明らかにし、多数の超高層住宅の更新に関する技術と関連する社会制度の準備を検討する。</p> <p>出版WG：「事例で読む現代集合住宅のデザイン」PART 2 を編集、出版する。</p>																		
2010 年度予算	190,000 円	<p>ホームページ公開の有無：あり                  委員会 HP アドレス：<a href="http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s8/top.htm">http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s8/top.htm</a></p>																	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 現代集合住宅のり・デザイン —事例で読む“ひと・時間・空間”の計画
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 「現代集合住宅のり・デザイン」を出版した。
<b>委員会活動の問題点・課題</b>	1. 当初の活動計画通りに活動が進められており、特に問題はない

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。